

研究テーマ「道徳科の指導方法の改善と工夫」

人とかかわり合い、意欲的に課題を解決しようとする児童生徒の育成  
～自己の生き方についての考えを深める道徳の授業づくりを通して～

廿日市市立津田小学校

はじめに

本校は、平成28年度より文部科学省委託「道徳教育改善・充実」総合対策事業の指定を受け、学校全体で取り組む道徳教育の実質的な充実を図るための実践研究を行ってきた。道徳の授業においては、道徳教育推進教師が全学年の道徳の時間に入ることにより、基本的な授業展開を全学年で共通認識し、取組を進めている。昨年度からの取組により、児童の多くは、「道徳の時間の勉強は好きだ」と答えており、授業中の発言も増えてきている。しかし、自分と友だちの考えを比較したり、付け加えたりして考えを深めるまでには至っていない。また、児童が道徳の学習内容を自分のこととして十分に捉えておらず、自分の生活に生かしきれていないという実態もある。そこで、本年度は特に、道徳的な課題を自分自身の問題として深く見つめさせることが大切であると考え、児童一人一人に、授業の中で自分自身をしっかりと見つめさせ、意見を交流する中で自他の良さを理解し合える主体的・対話的で深い学びになるように、指導方法の改善に取り組むこととした。

1 研究内容

児童が多様な感じ方や考え方に接する  
主体的・対話的で深い学び

- (1) 問題解決的な学習
- (2) 道徳的行為に関する体験的な学習
- (3) 生き方へつながる振り返り



2 実践

(1) 問題解決的な学習

「なかよしだから B友情、信頼」(第3学年 7月実施)

① 「主題に関わる問題意識をもたせる」導入の工夫

・導入の段階において、児童が実際に経験しそうな日常生活の問題場面を提示し、その時の児童の考えを出させ、ねらいとする価値への方向付けをする。そして、「よい友だちとはどんな友だちなのでしょう。」という課題を設定して、本時で扱う道徳的価値についての課題意識をもたせる。

② グループトークを取り入れた展開の工夫

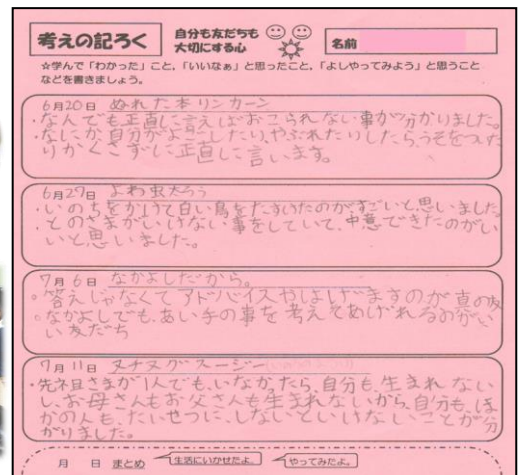
・自分の考えと友だちの考えを比較しながら話し合わせるとともに、共通点や相違点を考えさせながらグループで意見を交流させることで、ねらいとする道徳的価値について考えを深めさせるようにする。そして、展開の最後に、よい友だちとはどんな友だちなのか、再び課題について考えさせ、まとめをする。これにより、児童に友だちとのよりよい関係の在り方について考えさせ、友だちの大切さについて実感させていく。

(2) 道徳的行為に関する体験的な学習

「たびに出て B礼儀」(第2学年 12月実施)

① ペア役割演技

・「明るく大きな声であいさつをするとどんな気持ちになるでしょう。」という中心発問を



もとにあいさつをする場面をペアで役割演技し、その後自分の考えを伝え合う。そうすることで、児童は自分のこととして考えとともに、自分の考えとの比較を行い、改めて自分の考えと向き合っていく。

② 全体役割演技

- ・役割を演じた児童だけでなく、見ていた児童から意見を求めたり、教師が助言したりすることで道徳的価値についての多様な考え方に触れ、理解を深めていく。

(3) 生き方へつながる振り返り

① 学習のまとめ

・「自分も友だちも大切に作る心」というテーマで、関連する内容項目をつなげた学習のまとめ（4時間）を設定し、道徳の時間の学習を進めている。つながりをもって学習することにより、テーマに迫っていく。

学習のまとめ（3）年		
①	教材名	「ぬれた本」
	内容項目	A 正直、誠実
②	教材名	「よむむし太郎」
	内容項目	A 善悪の判断、自律、自由と責任
③	教材名	「なかよしたから」
	内容項目	B 友情、信頼
④	教材名	「ヌチヌグスーヅ（いのちのまつり）」
	内容項目	D 生命の尊さ

② 自己を振り返ることのできるワークシート

- ・毎時間の学んだ考えを積み重ねた後に、改めて、自分の考えの変化や成長を振り返る。

3 成果と課題

(1) 成果

- 導入で児童の身近な生活の中の問題場面を取り上げたことで、児童は、主題に関わる問題意識をもち、主体的に道徳的課題に向き合うことができた。最初と最後に同じ課題を問うことで、児童の考えの深まりにつながった。
- ホワイトボードを使い、グループトークをしたことで、互いの考えの共通点や相違点を視覚的に気付くことができ、自分の考えを深めることができた。
- 役割演技をすることで、全員が学習課題について、自分のこととして主体的に考えることができた。また、演技をする児童だけでなく、見ている児童に考えを述べさせることで、いろいろな立場に立って考えたり、友だちの考えに触れ、自分の考えを新たにしたりすることができた。
- 学習のまとめを基に自己を振り返るワークシートを活用したことで、道徳の時間で学んだ道徳的価値を道徳の時間だけでなく、生活の中でも生かそうとする意欲や態度につながった。

(2) 課題

- 道徳的価値についての考え方がねらいとするところからずれてしまうこともあった。ねらいとする道徳的価値について児童の考えを深めるための発問の工夫がさらに必要である。
- 個で思考する時間を十分に確保する必要がある。

おわりに

他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育むためには、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子どもが自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」を実現しなければならない。そのために、多様な指導方法の工夫を仕組み、授業の改善・充実を図ることが大切である。

今後も、「自己の生き方についての考えを深める」ために、人とかかわり合いながら他者の多様な考え方に触れさせ、自分のこととして考えを深めさせるという視点をもって、特に「ねらいに迫る中心発問の吟味」、「個で思考する工夫」、「全体で思考する工夫」についての研究を進めていきたい。そして、効果的な指導方法を取り入れ、改善しながら道徳科の授業をつくっていきたいと考える。